

令和5年度 学校評価

上尾市立尾山台小学校

【評価の見方】

4…大変そう思う 3…そう思う 2…ややそう思わない 1…全く思わない  
**A** (平均3.4以上) 達成できた **B** (平均2.8以上3.4未満) だいたい達成できた **C** (平均2.8未満) 改善の必要あり  
 ◎成果 ▲改善点 →改善策

評価の観点		自己評価				学校関係者評価
	項目	前期評価	前期数値	後期評価	後期数値	
I 学校運営	1 校務分掌が明確で、協働体制が構築されている。	A	3.6	A	3.7	・よく出来ている。  ・様々な児童がいる中で、指導者は大変だと思いますが、今後もよろしく願います。  ・年間の計画を作成するなど大変ですが、色々な行事を実施していただき、楽しく参加させていただきました。
	2 各会議の効果的な運営がなされ、共通理解が図られている。	A	3.5	A	3.6	
	3 学校の特色、実態に即した学校行事計画となっている。	A	3.7	A	3.8	
	4 学校の特色、実態に即した日課となっている。	A	3.7	A	3.7	
	5 個人情報等が適切に保管されている。	A	3.5	A	3.9	
	◎生徒指導・教育相談体制が整い、児童・保護者へ迅速に誠意をもって対応することができた。 ◎職員会議前に資料を回覧し、意見を交換しておくことで、職員会議時間を大幅に短縮できた。 ◎電子日報を活用し職員集会を週2から週1に減らす、学期末の通知表事務期間に会議を外すなど効率的な働き方の工夫をした。 ◎日課を見直し、長い休み時間もあり、子供たちがたくさん遊べてよい。月曜を全学年5時間としたことで、放課後の仕事ははかどった。 ◎部会の割り振りを変えたことで、主任・副主任が明確になり部会が進めやすくなった。全員でチームワークよく助け合える職場環境がよい。  ▲職員会議前に資料を読み込む時間を確保するとより確実に検討できるのではないか。 } 来年度に反映する。 ▲議題内容の大切なポイントを担当者が簡潔に伝え、より自分事として協議できるのではないか。 } ▲5分の業間は低学年では授業準備が難しい場面もある。一方で時間が短く、児童同士のトラブルも減った。→学年に応じて柔軟に対応していく。 ▲児童・保護者アンケート結果から、読書活動の定着に課題が見られた。日課に読書の時間を組み入れてはどうか。→来年度検討。					
II 教科等の指導・研修	6 教育目標を具現化し、取り組んでいる。	A	3.5	A	3.8	・ICT機器は積極的に活用している。  ・縦割り活動、学年ごとの工夫に感動しました。
	7 児童が活躍し、分かる授業のための創意、工夫を行っている。	A	3.5	A	3.7	
	8 ICT機器を積極的に活用した授業を実践している。	A	3.7	A	3.8	
	9 教育課程の適切な編制と実施がなされている。	A	3.5	A	3.8	
	10 教育活動全般において、ほめる教育を推進している。	A	3.7	A	3.6	
	11 校内研修(研究)に主体的に関わり、研修(研究)を深めている。	A	3.6	A	4	
◎教育目標「明るい子、考える子、たくましい子」の具現化に向け、日々の学級指導、生活目標や各種便りを通して意識を高めた。 ◎単元内自由進度学習、学習者用端末を活用した授業、少人数指導、TTなど、様々な学習方法を取り入れることで、分かる授業の工夫をした。 ◎学習者用端末の使い方について、全職員共通理解をし、繰り返し児童へ伝えるよう努力するなど、一人一人細かく見取ることができた。 ◎課題研究では、自由進度学習や総合的な学習の時間・生活科で、新たな実践を進め、主体的に学びを深める児童の育成に取り組めた。長期的に取り組みたい。 ◎ほめる教育を研究に位置付け、全職員で取り組もうとしたことは、大変よかった。継続して研究していきたい。 ◎日課の見直しで、児童がたつぷりと遊べたり、放課後の事務時間が大幅に増えたりし、とてもよかった。  ▲カリキュラム・マネジメントの視点から教育課程を見直す。一課題研究とも関連付けたい見直しを実施。						
III 児童理解	12 一人一人の児童理解に努めている。	A	3.8	A	3.9	・いじめの情報収集は難しいと思うが、児童と密に今後とも取り組んでほしい。  ・いじめ対策はとても難しい問題なので、正解はないのではないかと。  ・子供見守り活動など、保護者も協力しながら、児童を見守る活動がとても良いと思いました。  ・目配り、気配り、ありがとうございます。
	13 いじめの未然防止、早期発見に向けた取組を行っている。	A	3.7	A	3.7	
	14 関係機関と連携した生徒指導・教育相談体制が整備されている。	A	3.5	A	3.8	
	15 問題行動に対し、組織的な対応を心がけている。	A	4	A	3.8	
	◎スクールワイドPBS(学校単位の行動支援)の取組でほめる教育を進めた。 ◎小規模校のよさを生かし、全職員で全児童を見守ることができた。児童一人一人の発言と行動を細かく見取れている。 ◎日頃から小さな変化も見逃さず、全職員で情報を交換し、いじめの未然防止や早期発見に努めた。 ◎教育センター、さわやか相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を密に行い、支援の必要な児童・保護者への対応を継続して行った。 ◎ほっとルーム(教育相談室)・保健室・職員室・校長室などに、机やいす、ソファなどを配置し、オンライン授業の対応などをして、教室に入れない児童の居場所づくりに努めた。  ▲毎月の生活アンケートなどをもとに、児童の不安を取り除ける対応を考え、長期的に見ていく。 } ▲ABプラン・支援カード・アセスメントシートによる連続性のある支援の確立。 } 職員研修を重ね、組織で取り組む。					

IV 安全・健康	16	安全指導を計画的に行い、児童の防災意識の高揚を図っている。	A	3.6	A	3.7	<p>・体力向上のその体力の基準は適切なのか。検討するとよいだろう。</p> <p>・Bの点をさらに御努力をお願いいたします。</p>
	17	あらゆる危機を想定した訓練、危機管理体制が構築されている。	A	3.6	A	3.5	
	18	体力向上に向けた適切な計画と実施がされている。	B	3.2	A	3.5	
	19	安全点検を適切に行い、安心・安全な環境作りに取り組んでいる。	A	4	A	3.8	
	20	児童の健康を把握し、適切に対応している。	A	3.9	A	3.9	
		<p>◎毎朝の立降指導、下校指導、通学班指導、一斉下校など、安全指導を計画的に実施できた。</p> <p>◎埼玉県警察による交通安全教室を全学年で実施できた。</p> <p>◎毎月の安全点検を全職員で実施し、修繕か所は迅速に修繕し、安心・安全な環境を整えた。</p> <p>◎1000m走記録会の前に「ランタイム」を実施したり、休み時間を活用した縄跳び教室など、新たな取組を実践できた。継続したい。</p> <p>◎年5回の避難訓練では、事前指導や振り返りをしっかりと行えた。</p> <p>▲積極的に外遊びをしない児童の解消のため、遊びのコーナーを作る、全校で体力作り週間をもつなど工夫が必要。→来年度に向けて検討。</p> <p>▲防災頭巾については、体育館での集会時以外にも、移動教室すべてに持参する方がよい。→移動時は持参することに変更する。</p> <p>▲不審者対応訓練は、2学期後半ではなく1学期が望ましい、それに係る職員研修の時間をもっと多く取るとよい。</p> <p>▲さすまたの配置場所を再確認したり、個数を増やしたりするなど、不審者対応を強化するとよい。</p> <p>▲避難訓練では、地震・火災・不審者以外に、竜巻・突風など、あらゆる危機を想定したものも実施できるとよい。</p> <p>▲心配録生法研修会では、具体的なシミュレーション研修にする方がよい。緊急連絡体制もより強化していく。</p>	来年度に反映。				
V 特別支援教育	21	特別に配慮を要する児童について、情報を共有し、指導にあたっている。	A	4	A	4	<p>・良好な状態で取り組めている。</p>
	22	特別支援教育の視点に立った、教育の推進に努めている。	A	3.7	A	3.8	
		<p>◎月例生徒指導・教育相談委員会を通し、情報を共有することで組織的支援体制で児童・保護者へ対応できた。</p> <p>◎支援が必要な児童へのサポーター配置を計画的に行った。</p> <p>◎特別支援教育に係る研修を複数回実施したことで、教職員の意識が高められた。</p> <p>▲PBSに係る研修を来年度も実施し、学校全体で同一方向の支援体制を整える。一職員研修を重ね、組織体制を整えていく。</p>					
VI 家庭・地域連携	23	ICTを活用して積極的に、たよりやホームページ、学校配信メール等で本校の教育活動や児童の様子などの情報発信に努めている。	B	3.3	A	3.8	<p>・Bの点をさらに御努力をお願いいたします。</p>
	24	幼・保、小、中、高の連携が図られている。	B	3.3	B	3.3	
	25	学校配信メール、連絡帳、電話、個人面談、教育相談等で保護者との連携を図っている。	A	4	A	3.8	
	26	学校応援団や地域の教育力を活用した教育活動を行っている。	A	3.4	A	3.5	
		<p>◎学校からの情報を様々な方法で、迅速に丁寧に発信することに努め、保護者アンケートからも高評価を得られた。</p> <p>◎学校配信メール「さくら連絡網」を活用した情報発信を週平均2回以上、個別に連絡が必要な家庭へはその都度を配信した。</p> <p>◎学校ホームページを通して、各種便りや学校での児童の様子について情報提供ができた。</p> <p>◎全学年(学級)が学年(学級)便りを毎週発行し、児童のがんばったことや保護者への連絡事項を伝えられた。</p> <p>◎幼・保・小・中の連携行事を計画以上に実施することができた。</p> <p>◎「おや小応援団」の防犯部による毎日の登下校の見守りは、地域の教育力の高さを感じる。</p> <p>◎「おや小応援団」の学校図書館整備、読み聞かせ活動、除草活動を主とする環境整備部の活動を充実できた。</p> <p>▲手紙類のペーパーレス化を進めているが、今後も推進できる部分はしていくとよい。→紙面で必要なものもあるため、用途に応じて対応。</p> <p>▲学校ホームページの更新日を定めることで、定期更新が確実にできるのではないかと。→来年度に反映。</p> <p>▲学校応援団員の高齢化や人数の減少が課題である。チラシを作るなどして団員を募集し活性化していく。→活動報告を含む案内を発行する。</p> <p>▲学校応援団の活用を推進するため、一覧表を全職員で周知したり、活動の場を広げて募集したりしてはどうか。→来年度に反映。</p>					
VII 児童の生活・学習・健康	27	児童は、あいさつ、右側廊下歩行を意識して生活している。	B	3	C	2.6	<p>・家庭での指導が必要な場面も多く、保護者と協力しながら取り組んでいただければと思います。</p> <p>・右側廊下歩行の意義は？(そこから児童に考えさせるとよい)</p> <p>・B、Cの点をさらに御努力をお願いいたします。</p> <p>・ルール通りに生活するのは理想ですが、でこぼこがあっても良いと思う。先生方、いつもありがとうございます。</p>
	28	児童は、主体的に学習する態度が身に付いてきている。	B	3	B	3	
	29	児童は、授業中ノートや連絡帳、テストなどの字を丁寧に書いている。	B	2.9	B	2.8	
	30	児童は、体力向上及び健康の保持増進を図ろうとしている。	B	3	B	3.2	
		<p>◎あいさつの児童会キャンペーンで意識が高まり、実践できる児童が増えた。</p> <p>◎単元内自由進度学習に取り組む姿勢は主体的であった。自分の力で学んでいく楽しさを実感している児童が多かった。</p> <p>◎大縄大会、ランタイム等の取組で、体力向上への意識を高めることができた。</p> <p>▲あいさつ、廊下歩行共に、課題がある。来年度もPBSの取組で推進したい。→来年度も継続して取り組む。</p> <p>▲字の丁寧さの指導は、個別に目をかけ、事前・事後の声をかけと指導を継続する。→指導を継続し、習慣化させていく。</p>					